



赤間西地区コミュニティ運営協議会

# 十年のあゆみ



平成24年2月1日

## 挨拶

赤間西地区コミュニティ運営協議会会長 花田 義男



赤間西地区コミュニティ運営協議会が発足して10年経ちました。

今では地域の活動拠点として充実した事業が行われています。これも皆さま方のご協力の賜物だと感謝いたします。

発足前までは、それぞれの組織や連合会など“点”での活動が行われていましたが、運営協議会の部会活動となり“面”としての活動へ移行していきます。

当初は手探り状態でしたが、10年の間に各部会の特徴ある活動はもとより、4部会合同で行う世代間交流事業など大きく発展していきました。また『赤間西コミュニティまつり』も盛況に行われています。

昨年は東日本大震災をはじめとする自然災害で大きな被害が出ました。このような災害時に、家族の絆、そして地域の結束力が求められると思います。わが地区の自主防災会も今後さらに充実強化させ、もしもの憂いのために備えていきます。

赤間西地区も今後ますますコミュニティの結束力を強め、皆さま方が笑顔で過ごせる素晴らしいまちづくりを目指して邁進していきます。

## 祝辞

宗像市長 谷井 博美



赤間西地区コミュニティ運営協議会が、発足して10周年という節目の年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。また日ごろから皆さま方には、コミュニティ施策の推進に多大なご尽力をいただいていますことに、改めてお礼を申し上げます。

貴地区では、毎年地域が一体となり大きな盛り上がりを見せる『赤間西コミュニティまつり』をはじめ、4部会を中心として多くの事業も精力的に実施されています。特に、子どもから大人まで多数の参加者で大変盛況な世代間交流事業や自主防災組織づくりなど、常に新しい取り組みにチャレンジしようとする意気込みのあるコミュニティだと感じています。

今後とも『まちづくり計画』に基づき、さらに住みよいまちづくりを目指して取り組みを進めていただくことをお願い申し上げます。

赤間西地区コミュニティ運営協議会の今後ますますの発展と、皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、お祝いのことばといたします。

# 設立当時の思い出

赤間西地区コミュニティ運営協議会  
設立10周年にあたり、設立当時、尽力  
された初代役員のみなさんにお話しを  
うかがいました。

コミセン設立については、平成5年  
頃に宗像市から話があり、自由ヶ丘  
南郷、日の里地区をモデルとして検討  
することとなりました。この3地区は  
公民館よりコミセン事業へ移行、新し  
く建設されるのは赤間西地区が最初と  
なります。

その必要性を問うために、赤間西地  
区住民に「コミセン建設についてのア  
ンケート」を実施。住民の8割以上の  
賛成により建設の方向で進められてい  
きます。

コミセン建設にあたり平成10年9月  
に建設準備委員会が発足。川崎さんは  
「その委員会ですべてが手探りの状態  
の中、3地区に見学に行つて、どのよ  
うな部屋が必要か、また備品はオーバ  
ーに言えばボールペン一本にいたるまで



初代館長  
肉丸忠昭さん



初代事務局長  
上原光道さん

検討したなく」と思い起こされます。  
部屋割りや使用目的など様々な面より  
検討を重ね、コミセンは平成14年3月  
に開館します。

肉丸さんは、貸館利用者をどうやっ  
て増やすか「町に出てPRしなくては  
いけないかと真剣に思いましたよ」と  
少し不安だったようです。しかし、開  
館前の貸館募集にはたくさんのお申し込  
みが入り、ほっとされたようです。設  
立準備委員会において規約などを作成  
し、7月にコミュニティ運営協議会が  
設立されいよいよ事業が開始されます。



設立総会の様子

上原さんは、当時は館長と事務局長  
が別々で、仕事の役割分担が明確では  
なく「どこまでの仕事をしていいの  
か」と戸惑っていましたよ」と話さ  
れます。そして「役員会はいつも長時  
間熱い議論が交わられていましたね」と  
貞富さんは当時を振り返ります。



初めての作品展開催

そんな中で第1回の作品展開催など  
事業も充実していきます。この第一歩  
を皮切りに、利用者や地域の人たちが  
楽しめる『コミュニティまつり』へと  
発展していきます。

その後、まちづくり交付金制度で、  
コミュニティ運営協議会が各団体へ助  
成金を配分することになり、そのため  
に何度も行ったヒアリング調査で決定  
した結果、各団体の活動がスムーズに  
行われるようになりました。



初代副会長  
川崎政一さん

より良い赤間西地区にするために未  
来のまちづくり像を検討し『ほのぼの  
まちづくり計画』を策定。その中でシ  
ンボルマークも決定し、コミセンの顔  
もだんだん整えられていきます。地道  
な話し合いのおかげで、今日の活発な  
活動へ発展していったのではないでしょ  
うか。



初代副会長  
貞富良子さん

最後にみなさんに、これからコミセ  
ンに望まれることを聞いてみました。  
今の形で良いと思います。そして地  
域のためのコミセンであってほしいで  
す。子どもたちが勉強している姿を見  
かけますが、子どもの頃からコミセン  
に親しんでいるのは大変良いことだと  
思います。

また、利用する人だけでなく地域の  
人が気軽に立ち寄れる憩いの場所になっ  
ていてもらいたいです。

苦勞しながら歩み出した一歩が、今  
の「コミセンを支えているのだと強く感  
じました。



盛大に行われた開館記念式典



センター建設中

平成16年6月	平成15年11月	平成15年10月	平成15年9月	平成15年5月	平成15年2月	平成14年11月	平成14年7月	平成14年4月	平成14年3月	平成14年2月	平成13年7月	平成13年5月	平成12年6月	平成12年4月	平成11年10月	平成11年6月	平成10年9月	
防災・地区図上訓練開催	韓国視察団来館 コミセン作品展開催	韓国視察団来館 コミセン作品展開催	子育て支援事業『ぬくもり』始まる	定期総会開催	第1回『ほのぼのコンサート』同時発行	主催講座開講 広報委員会設立	会館開館	センターの貸館業務開始	センター竣工 コミュニティ・センター赤間西会館開館	センター竣工 コミュニティ・センター赤間西会館開館	備委員会発足	センター着工 コミュニティ運営協議会設立準備委員会発足	委員会発足	委員会発足 コミュニティ・センター設立委員会発足	ーククシヨップ開催 コミュニティ・センター計画ワークショップ開催	まる コミュニティの地区別説明が始まる	進委員会発足 コミュニティの地区別説明が始まる	コミュニティ・センター建設推進委員会発足



**地域への音楽発信事業『ほのぼのコンサート』**

毎年2月11日に開催されるコール・チャティの定例コンサート。素晴らしい歌と趣向を凝らした内容で地域のみなさんを楽しませている。



**宗像市子ども課の施策により始まった**

**乳児子育て支援事業『ぬくもり』**

平成17年度年より『ぬくもりっこ』へ改名。毎月1回開催され、地域の子育て中のお母さんたちの集いの場として定着。



**コミュニティまつりの様子**

センター利用の教室をはじめ地域のみな  
さんが参加し、年々盛大になっている。



**海外からのお客様**

韓国視察団のみなさん（上）  
ブルガリア 舞踊団（右）



平成 24年 2月	平成 24年 1月	平成 23年 3月	平成 22年 10月	平成 22年 9月	平成 22年 5月	平成 22年 4月	平成 21年 8月	平成 20年 9月	平成 20年 7月	平成 20年 4月	平成 20年 1月	平成 19年 11月	平成 19年 5月	平成 18年 4月	平成 18年 3月	平成 17年 9月	平成 17年 4月	平成 16年 11月	
10周年記念冊子発行	10周年記念式典開催 賞受賞	宗像市広報紙コンクール最優秀 賞受賞	赤間駅前カムカム祭開催 評価委員会実施	ブルガリア・カザンラック市より バラの花苗を寄与される	太陽光発電設置	ブルガリア・カザンラック市より 評価委員会設立	AED設置	消防署・各自治会と合同防災訓 練実施	4部会合同事業開始	『ほのぼのまちづくり計画』よ り立案され赤間西郷土・歴史愛 好会設立	赤間西地区自主防災会設立	『コミセン文化祭』を『コミュ ニティまつり』へ名称変更	『赤間西ほのぼのまちづくり計 画』まとまる	西地区ヘルス推進員を委嘱	赤間西地区青少年指導員・赤間 西地区ヘルス推進員を委嘱	まちづくり交付金制度開始	指定管理者制度開始	シンボルマーク決定	第1回コミセン文化祭



**広報紙コンクール表彰式  
最優秀賞を受賞**



片仮名のアカマを組み合わせ、  
地域住民の躍動感、自然に恵ま  
れた野山に太陽が昇る様子を表  
したシンボルマーク。  
公募により大久保泰雄さん（大  
谷在住）が考案したデザインを  
採用。



**17年『まちづくり計画策定委員会』  
18年『ほのぼのまちづくり計画』**

将来の赤間西のまちづくりについて熱心に討議さ  
れた。現在の赤間西のコミュニティ活動のベース  
になっている。

# 赤間西地区コミュニティ運営協議会の主な活動

## 公民館活動部会



囲碁・将棋大会  
未来の名人も奮闘中

グラウンド・ゴルフ大会  
日頃の練習の成果を発揮



歴史塾（赤間西郷土・歴史愛好会）  
郷土の歴史を知って我がまちに愛着を

ほのぼのコンサート  
（コール・チャティ）  
年一回のコンサートを心待ち  
にしてくれるファンも急増中



生涯学習を通じて!!

## 青少年育成部会



地域パトロール（青少年指導員会）  
安全・安心のまちを保つために



城山中PTA夏休み  
夜間パトロール



あかにこクラブ  
（赤間西小学校）  
毎週土曜日の子どもの  
居場所づくり

ぬくもりっこ  
（主任児童委員）  
親子の憩いの場



子どもの成長を見守って!!

## 健康福祉部会



福祉講演会（福祉会）  
感動の話を聞いて



子ども見守り活動（老人会）  
子どもの安全を願って



ベタンク大会

明るく元気な長寿社会へ!!

## 4部会合同事業（世代間交流）

春  
物語



ほたるを見に行こう!

夏  
物語



そうめん流し

秋  
物語



ぶらりと赤間西

冬  
物語



寺子屋IN赤間西



ぜんざいサービス（食進会）  
いつもおいしい料理をありがとう



バルーン遊び（民生・児童委員会）  
子どもたちとの触れ合い



城山まつり（城山を守る会）



にぎにぎ体操交流会（体育指導員）  
みんなで健康増進

## 環境整備部会



地域美化運動  
毎年たくさんの方参加でごみ拾い



きれいにし隊  
毎月不法投棄のパトロール



花いっぱい運動  
コミセン花壇を華やかに

わたしたちの まちが きれいになります !!

# 赤間西地区の10年前と今

かつての赤間西地区は商業・農業中心の土穴と農業中心の三郎丸からなる地域でした。昭和30年代中頃より、現在の土穴1丁目と城ヶ谷に新日鉄（旧八幡製鉄）の社員用住宅が建設され、以降赤間ヶ丘、城山、泉ヶ丘、大谷と住宅団地が開発されました。近年は赤間駅周辺に高層マンションが建ち並び、赤間駅北口の区画整理事業により新しい街並みが完成しました。この10年、赤間西地区の人口、世帯数、高齢化率がどのように推移したのか調べてみました。下表のように世帯数は増えていますが、人口は減少しています。1世帯あたりの人数は減り高齢化が進んでいます。これからは、住民・自治会・コミュニティ運営協議会が連携を図り、協力して住みよいまちづくりをしていかなければなりません。

自治会名	人口		世帯数		高齢化率		街として 確立した 時期
	10年前	現在	10年前	現在	10年前	現在	
三郎丸	1,160	1,471	414	592	15.1%	17.6%	鎌倉以前
土穴	2,045	2,234	905	1,068	23.6%	24.6%	鎌倉以前
城ヶ谷	873	785	365	373	40.9%	42.9%	昭和36年
赤間ヶ丘1区	664	610	245	256	30.9%	39.8%	昭和43年
赤間ヶ丘2区	464	417	174	180	33.6%	39.3%	昭和47年
城山	425	379	164	174	29.4%	36.7%	昭和47年
大谷	1,751	1,454	514	554	9.5%	16.9%	昭和61年
泉ヶ丘1丁目	902	761	251	259	5.4%	10.2%	平成4年
泉ヶ丘2丁目	1,012	878	288	307	6.7%	13.1%	昭和62年
マンション 土穴1区	249	220	85	87	4.0%	11.8%	平成7年
マンション 土穴2区		180		69		7.2%	平成17年
計	9,545	9,389	3,405	3,919	18.8%	23.1%	宗像市自治区別人口世帯数状況表 10年前（平成13年11月末） 現在（平成23年11月末）



昭和43年  
赤間ヶ丘団地造成中  
(上原光道さん提供)



昭和30年頃の赤間駅  
(森田昭徳さん提供)

昭和63年頃の泉ヶ丘  
奥に見えるのは赤間西小  
学校  
(貞富紀昭さん提供)



大正13年  
三郎丸の村中線（現在のコ  
ミセン前）の道路を造成中  
(小槌邦茂さん提供)

## 広報委員会

赤間西地区コミュニティ運営協議会も10周年を迎え、『ほのぼの赤間西』も10年を経過しました。編集員一同、より良い広報紙を作るために赤間西地区の様々な情報を取り上げ、地域の皆様に親しんでもらえる内容に心がけています。企画・編集・校正で力を発揮する人など編集員はそれぞれ得意な分野を持っています。その能力をフルに活かして「魅力ある紙面」の広報紙を発行します。お陰さまで平成22年9月発行の『ほのぼの赤間西』20号は宗像市広報紙コンクールで最優秀賞を受賞しました。これからも皆様のご協力のもとに広報紙づくりに取り組んでまいります。身近な話題やご意見があればお寄せください。

編集長 松永寛二



地域的话题をふんだんに取り入れて充実した紙面の『ほのぼの赤間西』

## 赤間西地区自主防災会

平成20年4月に赤間西地区自主防災会が設立され、防災への意識がさらに高まり、各自治会においても自主防災会が組織されるようになりました。赤間西地区コミュニティ・センターは宗像市の災害避難場所に指定されています。防災倉庫が設置され防災グッズを保管しておりますが、近年の災害は想定を超えたものが起きているので、さらなる支援体制を整える必要があります。役員を中心に各部会員・構成団体のメンバーで自主防災会が組織されていますが、日頃より訓練を行って各自がその役割を確認したり、情報交換会等を行って防災意識の向上を図っていくことが、今後必要となっていくでしょう。

赤間西地区自主防災会会長 花田義男



防災グッズの確認をする  
自主防災会のメンバー

## 事務局

事務局は、センター利用の貸館業務をはじめコミュニティ運営協議会の様々な活動を支える業務を行っています。毎月『コミセンだより』を発行し地域の情報発信源としての役割も担っています。また毎回好評の『コミセン講座』も企画しています。宗像市から委託された住民票等の発行や、図書貸し出しなど、地域の子どもから高齢者の皆さんのお役に立てるコミュニティ・センターを目指しています。事務室は壁を設けずに来館者が気軽に問い合わせができるように工夫された設計とをされている方々と円滑な連携ができるように事務局職員一同日々業務に励んでいます。

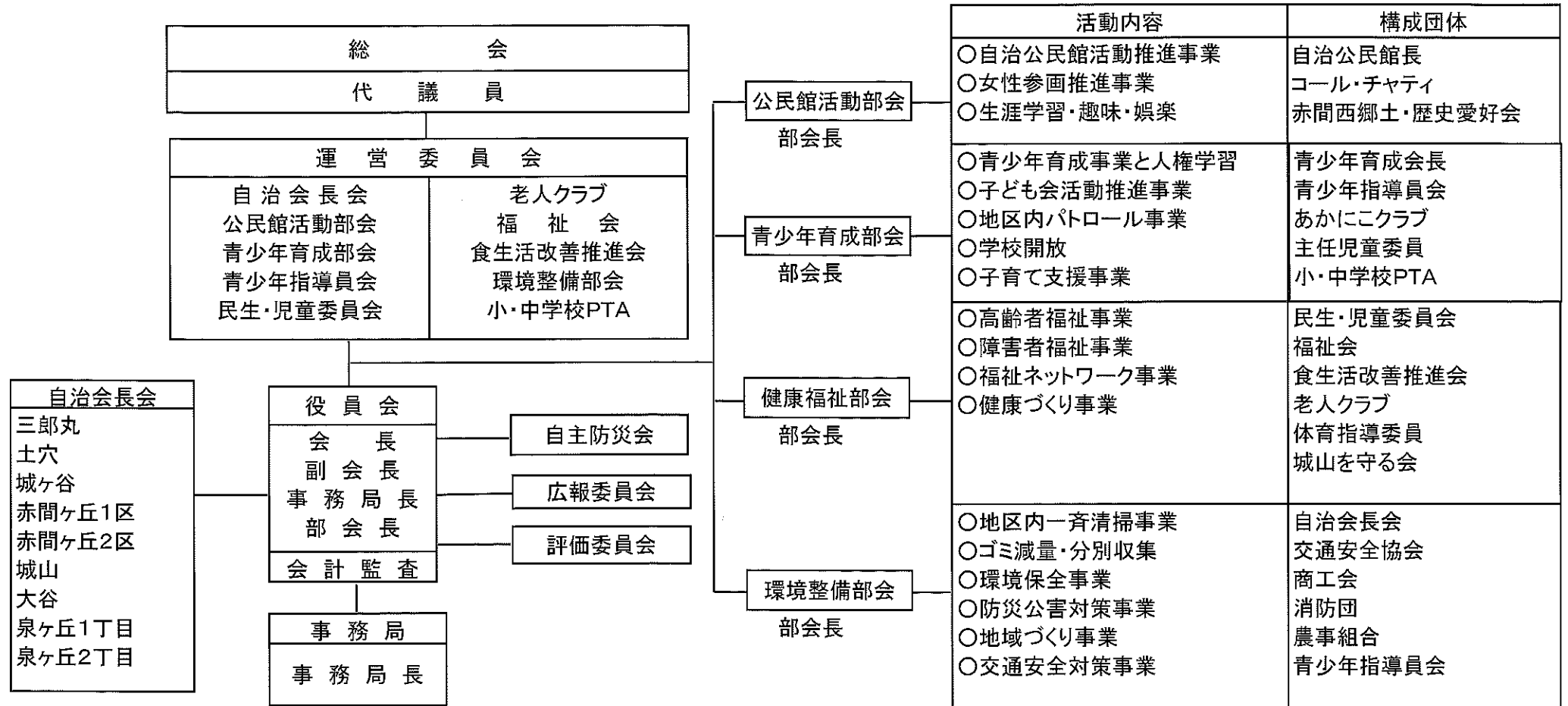
事務局長 山靠近男



地域のみなさんが積極的に  
参加し楽しめる講座は毎回好評



# 赤間西地区コミュニティ運営協議会組織図

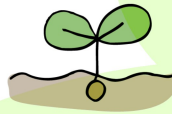


# 子どもたちとコミュニティ 十年のあゆみ

平成14年3月23日  
(小学2年生)



コミセンの開館記念式典で、お祝いの歌をうたってくれた赤間西小2年生の子どもたち。



平成17年11月20日  
(小学6年生)

6年生の時には、私たちの赤間西を住みよいまちにするために、まちづくりについて学習。その成果を『ふれあい文化まつり』で地域のみなさんに向けて発表しました。「目の不自由な方の為に音のなる信号機にしてほしい」「コミセンの花壇を花いっぱいになりたい」などの意見が取り入れられ、実現しています。

平成23年12月  
(高校3年生)



そして今、あの時の小学2年生の子どもたちは...、大学受験に向けて、日々コミセンで勉強する姿も頼もしい高校3年生になりました！



未来を担う子どもたち。赤間西ではこれからもコミュニティ全体で子どもたちを見守っていきます。

# 赤間西地区のまつり



千灯明(三郎丸)



神幸祭(土穴)



赤間駅前カムカムまつり

～ 未来へのメッセージ ～

明るく笑顔あふれる街・未来にひるがれコミュニティの輪

赤間西地区コミュニティ運営協議会 十年のあゆみ

編集・発行：赤間西地区コミュニティ運営協議会 十周年記念行事実行委員会

田形 殖 上原光道 貞富良子 真武梅夫 吉田 晃 松永寛二

〒811-4143 福岡県宗像市三郎丸5丁目2-24 電話(0940)38-9506